研究ノート：中国の石油事情に関する考察

Research on oil circumstances of China

肖　　廣
Xiao, Guang

概要

中国が 1993 年より石油輸入国になり、国民経済発展の好調を加えて、自動車の個人保有台数が急速に増えつつある。これに伴って、石油の需要量も急増してきた。

中国における石油の消費量は過去 10 年間、年率 6.66％の割合で増加してきた。これに対して、中国の石油の年間増加率は 1.75％にすぎない。いかに石油市場の安定供給を確保するかということが、中国の国民経済の順調な発展を維持し、小康社会[注1]の実現にかかわる重大な問題であるため、国家の総理である温家宝を組長とする石油戦略指導小組は陣頭に立って指揮している。中国政府の重要視程度はこれまでにないほど高いといっても過言ではない。

中国の国有三大石油会社[注2]は国内の探査、生産開発に力を入れるだけでなく、積極的に世界に出て、技術協力、株式参入、買収、合弁などの方式で石油開発の国際協力を強化している。本研究は中国の石油戦略要旨、経緯、現状、今後の見通しといった 4 つの面に関して、中国の石油生産、需要、市場供給の現状を分析し、中国の最近の石油戦略を把握することを目的とする。

キーワード：石油　石油戦略　石油生産　探査埋蔵量　可採埋蔵量　石油輸出　石油輸入　石油消費　石油危機　石油供給市場　国民経済　小康社会

Abstract

Rapid national economic growth and car ownership continue to increase rapidly and with that a demand for oil has similarly increased leading China to begin turning into an oil importer from 1993.

China's oil consumption had increased at an annual rate of 6.66 per cent during the past decade. On the other hand, annual increase rate of domestic oil output is only 1.75 per cent. How stable oil supply can be secured is a serious problem that maintains favorable development of the national economy, and is related to the realization of the affluent society, the central government is attaching much importance to it unheard-of levels. An oil

strategy guidance group which made Wen Jiabao (the Prime Minister of China) a group leader was started up.

Three government-owned oil companies in China not only put a great deal of effort into domestic oil exploration and development, but also strengthen international cooperation of oil development with mode, such as technical cooperation, stock entry, buying over, and merger. This research aims to grasp the present conditions of oil production, oil demand, and oil market supply by analyzing China' new oil strategy from four aspects such as the main points of oil strategy, details, present conditions, future prospect.

Keyword: Energy, oil, oil strategy, oil production, petroleum exploration reserve, oil export, oil import, oil consumption, oil crisis, oil supply market, national economy, affluent society.

目次

1. 中国の石油戦略の要旨
2. 石油戦略の経緯
3. 石油戦略の現状
4. 今後、中国の石油戦略の見通し

1. 中国の石油戦略の要旨

戦略物資としての石油がいかに安定供給できるかということは中国の国民経済発展にとって、極めて重要なことである。中国は石油の生産と消費大国として、90 年代に入ってから石油の生産量は小幅で増え続けている。しかし、石油の生産量が大抵横ばいの状態にあり、国民経済の急速な発展に伴って、石油の消費量増は生産量増を遥かに上回っている。

中国では当分の間、石油の貯蔵量は大幅な突破がまずないと言う現状のもとで、中国の石油供給市場に如何に安定した石油供給ができるかは中国の上層指導部が直面している問題である。特に最近では石油生産国と石油生産地域（アフリカのスーダン、アンゴラと中東地域）の不安定要因で石油の価額高騰が止まらないため、石油消費量が年々増加している中国は、石油供給に強い危機感を抱くようになっている。石油の安定的な供給は、いままで続けてきた経済政策が順調に推進できるかどうかに関わる重大な問題である。中国政府は今後、中・長期の経済発展計画に着眼し、2005 年 5 月に国務院が温家宝総理を組長、黄菊、曾培炎総理を副組長とし、国家発展改革委員会主任、外交部部長、国防科学工業委

員会主任、国家資源委員会主任、商業部部長などの大臣からなる国家エネルギー指導小組を設立した。この指導小組は国家のエネルギー発展戦略と企画、エネルギーの開発と節約、エネルギーの供給確保と緊急対策の策定に取り組んで、また、エネルギーの対外提携協力を研究し、これまでのエネルギー政策、特に石油政策を見直し、積極的に世界に出て、石油を探してくるという基本的な対策を打ち出す重要な役割を果たすと思われる。

2. 石油戦略の経緯

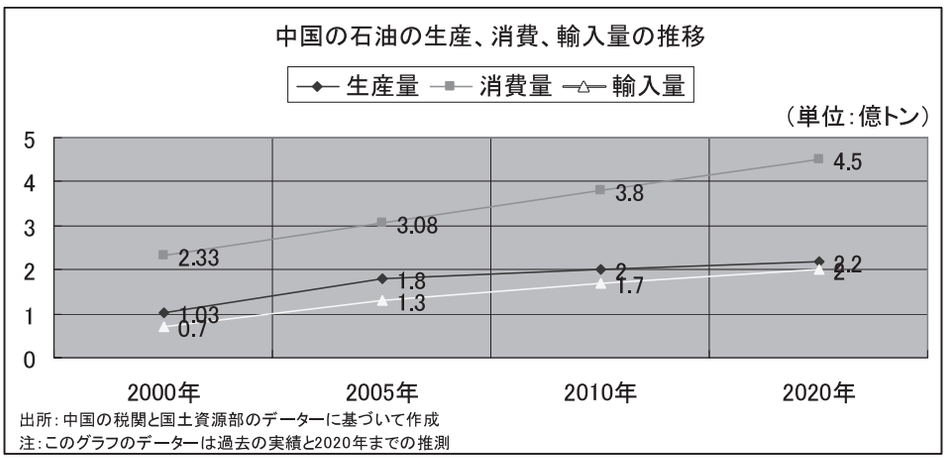
中国の自動車、機械、鉄鋼などの工業の急速な発展と、中国の工業化、農村の都市化に伴って、エネルギーに対する需要増加のスピードが加速している。特に個人自動車保有台数の急増は国内石油消費を著しく刺激している。現在、石油の約 70％は自動車の燃料として使われている。

また、国民の所得水準の向上と共に、中国では 2 つの問題が避けられず、直視しなければならない。その第 1、石油消費量が増加しているが、石油資源に限りがあるため、石油を大量に輸入して、国内の需要に満たすことである。その第 2、石油の外国依存度が高くなることである。1993 年に中国は石油純輸入国となってから、石油の外国依存度が 1995 年の 7.6％から、2000 年の 33.8％へと急増した。専門家の分析では 2020 年頃になると、石油の消費量がおよそ 4.5 億トン以上が必要であり、そのときの外国への石油依存度は 60％になると推測されている。

なお、20 数年間、安定した高い生産を続けてきた中国の大慶油田は今老衰状態にあり、昔の生産レベルまでは復活できず、大慶油田のような生産レベルの新しい大油田はいま見つけていない。他の油田も十年ほど以前のレベルで低迷している。

中国の石油生産量はこれまで以上に低い増産率で低迷し、今後も、石油生産量の増加率を引き上げるのが難しいと予測される。かくて中国では石油の自給自足の輝かしい時代が終わったのである。

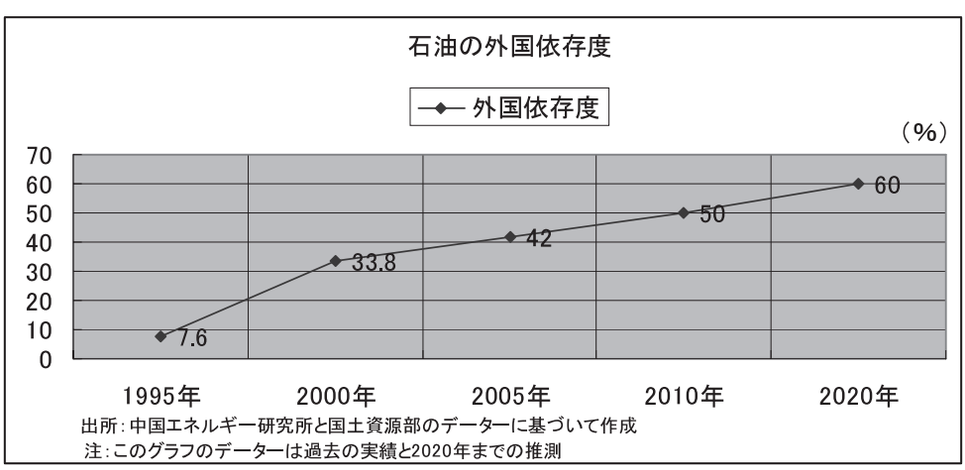
中国税関の統計によると、1996 年の中国原油輸入量は 1995 年に比べて約 35％と激増し、2,262 万トンに達した。他方、原油輸出量は 2,033 万トンで、中国では初めて原油輸入量が輸出量を上回った。1997 年の石油輸入量（原油と石油製品を含む）は依然として増加した。その輸入量は 5,927 万トンで、前年に対して 54.2％の大幅増加を示した。そのうち、原油輸入量は 2,262 万トンから 3,547 万トンに増加し、増加率は 50.3％である。しかし、同期間で見た石油輸出量は 2,541 万トンで対前年比 3.4％の微増である。



グラフ１

今後中国の石油消費量は毎年約 5.77％のスピードで増加すると見込まれるのに対して、同期間の国内の石油供給増加のスピードは 1.75％に過ぎないのである。石油需要量の増加率が生産増加率を大幅に上回ると予想されており、2004 年中国の石油の年間生産量は 1.75 億トンに対して、その年の需要量は 3.09 億トンで 1.34 億トンの供給不足となっている。

国際エネルギー機関（IEA）の研究結果によると、中国の石油供給不足分について、2005 年は 1.5 億トン、2010 年は 1.8 億トン、2015 年は 2 億トンに達すると分析されている。1993 年中国が石油輸入国となって以来、中国の石油輸入量は年々増え、1994 年の年間290 トンから2004 年の 1.44 億トンまで増加した。石油の外国依存度は1994 年の 1.9％から 2004 年の 45.1％へと上昇した。2010 年の石油外国依存度は 50％、2020 年は 60％になると推測されている。



グラフ２

3. 石油の現状

① 石油資源の現状

1993 年時点における中国の石油、ガス資源の埋蔵量を評価した結果によると、約 800 億トンで、可採埋蔵量は非常に限りがあり、その埋蔵量は資源総量の 20％程度で、約 130 億トン～ 160 億トンである。イランの一つの油田の埋蔵量が 250 億トンでるのに対して、中国の油田のそれはイランの中位の油田のレベルに相当する。統計によると、中国においては、石油資源の可採量は 114.9 億トンであり、世界の 9 位を占めている。しかし、人口に比例すると、一人当たりの資源量はわずか 10 トンしかなく、世界の 41 位に過ぎない。

② 石油生産能力

中国において、生産量の多い油田の大部分は東北地域（大慶油田、遼河油田）、中原地域（勝利油田、大港油田など）に位置し、これらの油田はすでに生産段階から見て、中・晩期にさしかかっており、原油に含まれる水分が高く、自然減衰率が高い。そのうち主力油田である大港油田、勝利油田はほとんど生産量が自然減衰の段階に入り、新たな開発の難しさが加わり、コストも上昇すると予想される。西部地域（新疆、甘粛省など）と海上開発（南海、東海）の条件が複雑で、探査と開発の両面において難点が多い。石油生産が躍進的に大きく増加する可能性は極めて小さい。

新疆油田及び海上油田の生産増加が期待されているが、供給の安定性が低く、新疆油田の現在の探査埋蔵量は 110 億トンである。しかし、交通輸送の整備が遅れているだけでなく、大変厳しい採掘環境もその開発が遅れる原因ともなっている。近いうちに飛躍的に大幅に生産量増加が期待できないと思われる。

他方、海上油田の探査埋蔵量は 11 億トンに過ぎない、現在のところ中国の石油戦略の見直しを迫るような大きい海上油田は発見されていないし、加えて、海上油田の探査、開発のコストが高いことも採掘を遅らせている（ちなみに海上油田の採掘コストは陸地採掘の 3 ～ 5 倍とされている）。また、採掘技術条件と探査のリスクも高い。同時に、ある地域では海上油田の開発は周辺地域との間に複雑な利害関係があり、すぐに解決できるかどうか大変予測しにくい要素もある。

さる 2003 年 11 月 15 日から 17 日にかけて、「中国国務院発展研究中心」主催で中国のエネルギー戦略のハイレベル論壇と改革国際シンポジウム予備会議が北京の釣魚台で開かれ、これには世界百カ国以上のエネルギー専門家と政府の要人及び実業家などが出席した。大会では中国のエネルギー綜合発展戦略と政策研究グループの背景報告書について、ディスカッションが行われた。中国の中・長期発展戦略計画を順調に実施するためには、中・長期のエネルギー供給確保は必要な前提条件であることが大会参加者の共通した認識であ

る。国家発展改革委員会主任である馬凱氏の記者会見の席で、まもなく中国の国家エネルギー中・長期計画が公表されるだろうとの話があった。しかし、中国のエネルギー供給は楽観視できない状況である。

客観的に見ると、将来、中国自国生産の石油の供給不足の幅がさらに大きくなるであろう。

イギリスの BP 会社が 2003 年世界エネルギー年度統計を分析した結果によると、2002 年中国の石油消費量は 2.457 億トンに達し、2001 年より 5.8％増加した。2002 年中国は日本に代わって、アメリカに次ぐ世界第二の石油消費大国となっている。2004 年中国の石油年間消費量は 2.6 億トンである。中国の石油の対外依存度はますます高くなっていることは周知の事実である。その需要対供給の不足の部分は輸入せざるを得なく、2020 年には需要量は 4.5 億トン以上に達すると世界エネルギー機関が予測している。しかし、中国の原油の生産量が 2010 年には 2 億トンと、2020 年には 2.2 億と推測される。それに対して 2010 年の生産不足分は 1.5 億トン、さらに 2020 年では 4 億トン近く達すると推測される。

目下、中東地域は中国の石油輸入量の 50％を占めて、依存の度合が一位となっており、その次、アフリカは 25％、アジア・太平洋地域は 15％、ロシアは 10％の割合をそれぞれ占めている。

中国の主な石油輸入国はスーダン、アンゴラ、カザフスタン、ウズベキスタン、イラン、ベネズェラ、イラク、ナイジェリア、インドネシア、アラビア連合首長国、ロシア、アメリカなどの国であり、そのうちアンゴラは中国の石油輸入の最大の国となっている。

石油市場の安定供給の為に中国の三大国有石油会社は積極的に世界に出て、技術協力、株式参入、買収、合弁など多岐の具体策をとって、石油開発の国際協力に力を入れている。

そのうち中国海洋石油集団公司はマラッカ海峡、インドネシア、オーストラリアで油田、ガス田を買収し、また中国海洋石油集団公司は株式方式でインドネシアのガス田の開発権を獲得し、インドネシアにおける最大の海上油田の生産会社となっている。

4. 今後、中国の石油戦略の見通し

中国国家発展改革委員会は外国の投資家に中国国内石油業界への投資、とくに南沙群島と東海の石油と天然ガスの開発への参加を呼びかけている。これは中国のエネルギーの長期安定供給確保の一環であると思われる。中国は国家石油備蓄弁公室を設立し、石油備蓄の準備作業を指導している。中国は段階を分けて、国家戦略石油の備蓄の準備を着実に推進しており、石油備蓄基地として、浙江省の鎮海、岱山、山東省の黄島、大連の 4 箇所を決めた。他に、主な石油消費部門も商業用の石油備蓄をするように指示したと伝えられ

ている。

新しい国家監督管理規定は現存の2つの規定[注3]を統廃合し、大幅な改定を行った。国際と国内の情勢に対応できるように、旧規定では変更可能な項目は中国石油化学集団公司は外国の会社と一緒に中国陸地における石油の探査と開発が可能なことにすることである。旧規定は中国石油集団総公司だけが中国陸地の石油資源の開発を担当し、海上の石油の開発は海洋石油集団公司が開発を担当する。中国はまた競争のメカニズムを導入し、国内大型石油会社が入札方式で国内の油田、ガス田の探査と採掘権の獲得をするようになっている。入札した会社が決められた探査期間中、油田とガス田を発見できない場合、開発プロジェクトから取り下げるようにさせる。中国の将来のエネルギー探査と開発について実務的で、アメリカとの協力を重視すべきであるとエネルギー研究所の専門家たちが主張している。中国は石油輸入多元化戦略の調整が幅広く、国際間との協力、海外石油市場に進出することを意味しており、「転ばぬ先の杖」という未然防止の危機管理を強化している。

また、中国環球工程公司は2005年6月14日に中国石油・天燃ガス集団公司の傘下に置かれ、子会社となった。業界内の関係者がこれによって中国の石油精製能力と石油化学能力、世界における競争力が高められると指摘している。

中国政府は石油確保戦略の視点から再調整を行い、西側の石油地質専門家たちの言った世界レベルの「4大2新貴（4大は中東、メキシコ湾、シベリア、南中国海；2新貴はカスピ海とアフリカ）」のうち、とくに石油、ガス豊富地域の一つである南中国海に目をつける。

現在、南中国海周辺諸国の中には「早い者勝ち」のように、既に当該区域で三十数カ所の油田、ガス田の開発を推進している国もある。去年の8月に中国全人代委員長の呉邦国氏がフィリピンを訪問した際、フィリピン政府と共同で南中国海の石油を開発する意向を確認した。その11月に政府代表団をフィリピンへ派遣し、石油共同開発の交渉が行われたという。

ロシアは中国と日本の2国間との石油パイプラインの計画を何回も変更したが、中ロ両国首脳の努力と決断で中国への分岐ラインを優先に建設することを決めた。特に去年から世界に進出する大きな動きとして、5月26日に中国石油公司とウズベキスタン石油・ガス会社と合資でウズベキスタンの石油・ガスを開発する協定にサインし、探査、採油、精製の各領域において業務を提携することを決めた。さらに6月12日に中国石油公司は湾岸国のオマーン国のオマーン石油会社と協力の覚え書きにサインし、翌日の13日にアラブ首長国連邦の国家石油会社（ADNOC）と石油分野で協力の覚え書きにサインした。8月22日に中国石油公司が41億ドルでカザフスタン石油会社を買収したことを宣告した。これらは中国の石油に関する一連の出来事であって、今後、その活動も一層活発すると予測される。

世界全体のエネルギー発展の道を振り返ってみると、石油、天然ガス、原子力といったエネルギーは21世紀において、それぞれの優勢が発揮され、最終的には石油の一部は石炭、原子力によって代わると専門家たちが指摘している。

新しいエネルギーとしての、物質エネルギー、太陽エネルギー、風力エネルギー、地下熱エネルギー、海洋エネルギー、水素エネルギーなどの潜在力が大きく、それに大気、環境に対する汚染もあまり無く、日増しに重視されるが、近い将来現在のエネルギーにとって代わることができないと考えられる。

参考文献

「国家エネルギー戦略の基本構想」陳清和、馮飛、周鳳起、王慶一　2003年11月17日
「国家エネルギー小組発足温総理が組長」記者：王「阿里ババ化学ネットワーク」 2005年6月2日
「中国はカザクスタン石油会社買収」郭詩亮「毎日新報」2005年8月23日
「中国エネルギー戦略と政策」陳清泰　2003年11月20日
「中国環球と中国石油との統合は“世界に出る”のが加速」李新民 「経済参考報」2005年6月15日
「中国石油先物評論」天生　2005年12月

注

1　国民全体の生活水準が高くなり、やや裕福であり、ゆとりのある社会
2　中国石油集団総公司、中国海洋石油集団総公司、中国石油化学集団総公司
3　国有三大石油会社の業務内容に関する規定